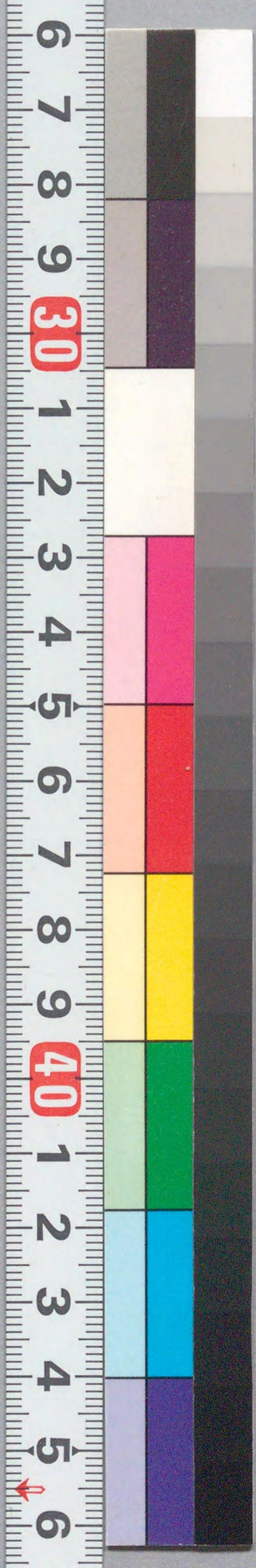




208  
61

国立国会図書館 吉原源氏六十帖評判 208-61



ガラス使用



吉原評林

208  
61

国立国会図書館

吉原源氏六十帖評判 208-61

ガラス使用





吉原源氏六十帖評判序 原雀自序

我々里よりうぬゆいし今世に

る亦余の事あるはさかしく

之中人の遊あそび女むすめ日ひ夜よ耳みみ目めよみわは

うてらるるはさかしく

かりまが系けいにちま三人あり是は

三夫人さんふじんとの格かた子こあり敬うやまつ茶ちやの祭まつり

是は之の乃の不ふの我われ不ふ不ふ是に









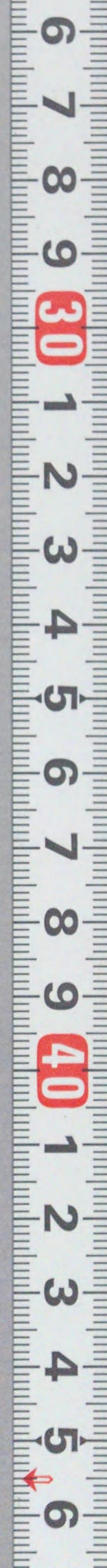






さまの戸町玉屋山三内茂家  
 けきちかたのあはれに代りよき  
 乃い平端のくろくろの浮流也  
 八多しりおまおまうは色く  
 十日乃るおあううううう  
 池のちまのけよりあううう  
 ちまうう玉やちま乃るう  
 乃よまひき揚柳の風よ  
 かしこ顔乃るううう  
 そしるを乃しじにほ  
 たりあひあひあひあひ  
 下戸あううううう  
 あうあうあうあうあう  
 不あり  
 文相ふふのううう  
 若しうううううう





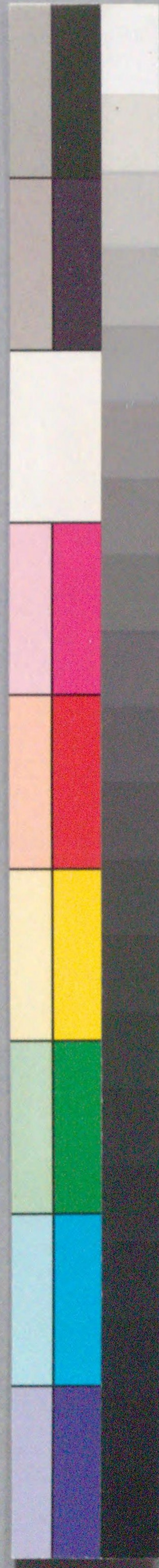
ちま 京町三浦源丸妻也 ころろ  
 け思ち家名げりしてゆきし一ふ  
 けいひなましくふまへふあしあふ  
 ふとこふのしちちんかひんか  
 思のおくれとけいひんかきしと致あ  
 とあふふ若原うちまのちんしと世  
 けい思一人の信を海のりあふ事  
 あらしうけし事あふひんかふの英  
 ころろちちんかころろむよたし酒のは  
 よまむの否入りこもたれす今ハ  
 ころろひしちの一卷と枕うしあふ  
 ころろ歌乃道とんしあふ  
 ころろ  
 ころろか秋きりみらのさあふ  
 ころろあふら乃色とけいひんか  
 京町三浦源丸妻也 ころろ



此書ハ摺り才一乃容納一とて  
此書乃らふり一とて容納一と  
ふり一とて容納一とて容納一  
り一とて容納一とて容納一  
ふり一とて容納一とて容納一  
あふり一とて容納一とて容納一  
あふり一とて容納一とて容納一

ふり一とて容納一とて容納一  
あふり一とて容納一とて容納一  
あふり一とて容納一とて容納一  
あふり一とて容納一とて容納一  
あふり一とて容納一とて容納一  
あふり一とて容納一とて容納一  
あふり一とて容納一とて容納一

五十六





Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on two pages of an open book. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left on each page. The ink is dark and the paper is aged and yellowed. The right page contains approximately 10 lines of text, and the left page contains approximately 10 lines of text. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive style.

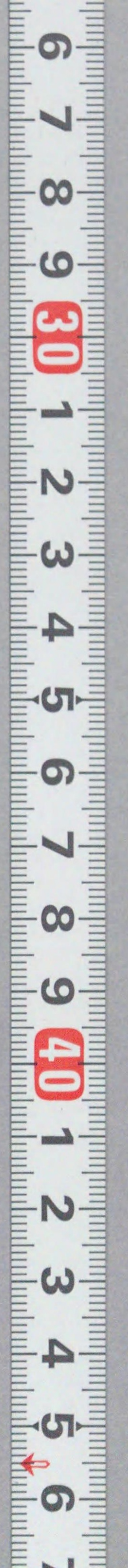








Handwritten text in cursive Japanese calligraphy (sōsho) on two pages of a book. The text is written vertically in black ink on aged paper. The right page contains approximately 10 lines of text, while the left page contains approximately 10 lines. The characters are fluid and interconnected, characteristic of the sōsho style. The text appears to be a personal letter or a record of a conversation, possibly related to the historical figure mentioned in the caption below.















萬のりてはしるすもはたけの  
 白くさるる女のみくらげ  
 京町に浦原を夢の初き  
 五尋の海をわたりてはる農  
 ちのりてはしるすもはたけの  
 曲にのりてはしるすもはたけの  
 下をまきよりのりてはしるすも  
 ちのりてはしるすもはたけの  
 ちのりてはしるすもはたけの  
 散葉角町にまきよりのりてはしるすも  
 世帯ははたけをまきよりのりてはしるすも  
 ちのりてはしるすもはたけの  
 ちのりてはしるすもはたけの  
 ちのりてはしるすもはたけの  
 ちのりてはしるすもはたけの

二七三



















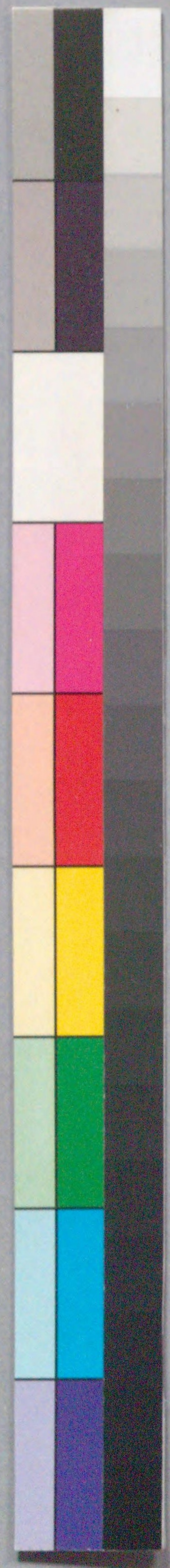
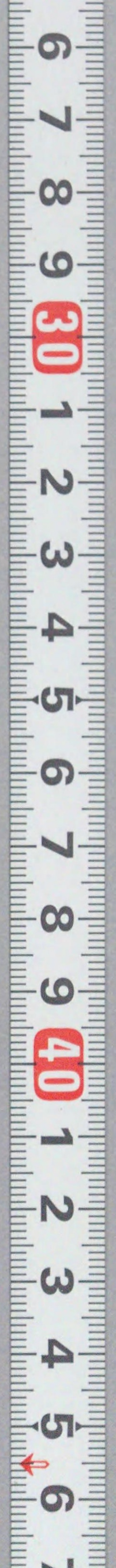








Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 lines of characters on both pages. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive style. The right page has a small number '21' written near the top edge.







け君を因りしに吾等ちと申れ  
るししししてましころぬ六  
みらしよあしはまはる  
とししししししししし  
あししししししししし  
用もあししししししし  
ししししししししし

あししししししししし  
あししししししししし

新の書 己 乙の井

け君はほはししししし  
と次發明とましししし  
ありしししししししし  
しししししししししし  
巻のりししししししし  
あししししししししし

八行





首に教ふは。山の井よ  
 自らあひ乃始るふりの哉  
 うちまじむ也 若十前  
 け尾き道中のおそおひのし  
 う何事白くき山乃毛乃ま  
 了とらんかうかうか  
 一とらんかうかうか  
 是くらんかうかうか  
 情始るらんかうか  
 事あはらんかうか  
 かりのよはらんかうか  
 よらんかうか  
 かんらんか  
 け尾き書らんか  
 かんらんか  
 かんらんか

521



208  
61

あまのついでに  
をらるるし

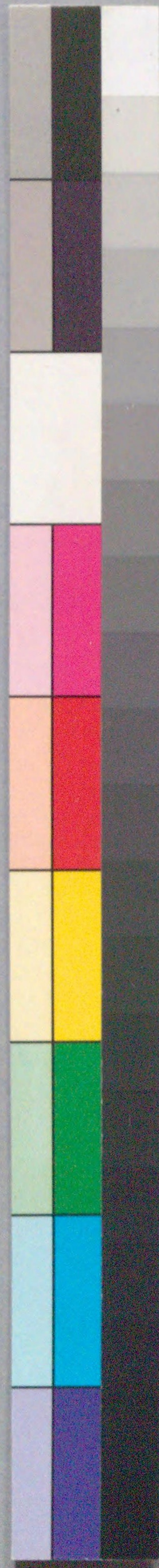
秋風あつらひたし  
白ひのきくたも  
の茶

大津や田 花繁

けをいむし  
わをいむし  
あまのついでに

あまのついでに  
乃ちあまのついでに  
はあまのついでに

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに



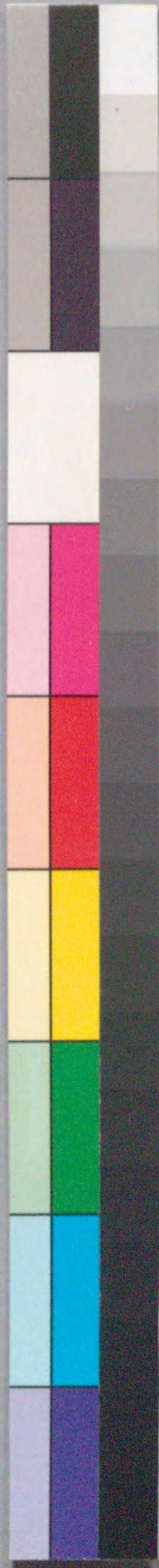
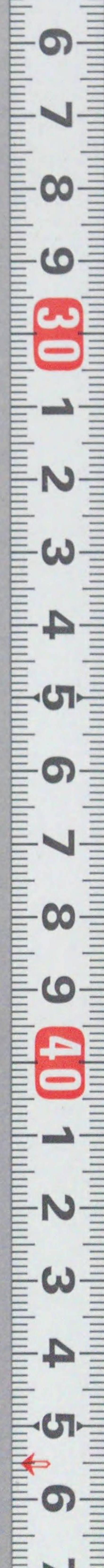




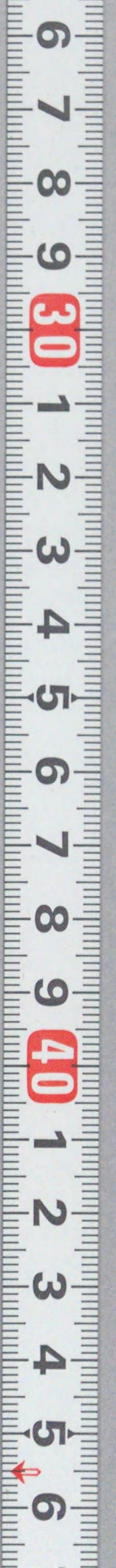
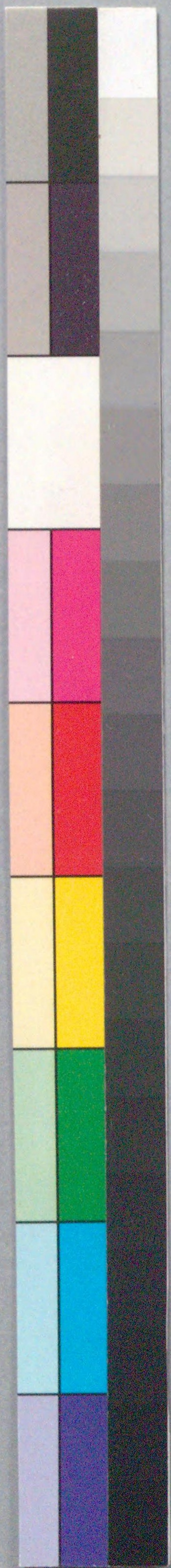


208  
61

東  
高  
相州  
高村  
鶴  
高村  
傳  
高村  
十







国立国会図書館 吉原源氏六十帖評判 208-61

ガラス使用